

評価項目	重点目標	取組の内容と評価の観点 (3.5ポイント以上・90%以上をA 2.5ポイント未満 70%未満をC)			中間評価 (11月16日時点)		◎学校関係者評価	評価	期末評価	
		具体的な方策 (取組)	★取組指標 (4段階教員平均・前期比較)	★成果指標 (肯定的評価・前期比較)	○成果と▽課題	●▼期末への方策等			○成果と▽課題	●▼次年度への方策等
確かな学力の向上	児童が、問いやめあてを主体的に追究でき、分かりやすい授業の実現を図り、学力を向上させる。 【施策1】	1 教員一人一人が学力向上マイプランを作成し、自分タイム・みんなタイム・振り返りタイムで授業を構造化する四谷スタイルの分かりやすい授業を行う。 【研究推進委員会】	★教員アンケート①【共通】(3.5ポイント) A あなたは、分かりやすい授業を行っている。 4はい 3少しはい 2少しいいえ 1いいえ ★教員の取組指標①(3.6ポイント) A 4マイプランに基づいた授業公開を2回以上行い他学級の参観を行った。 3マイプランに基づいた授業公開を2回以上行い他学級の参観を行わなかった。 2マイプランに基づいた授業公開を1回以上行ったが他学級の参観を行わなかった。 1上記以下	★児童アンケート⑨(R4 95.8%) A 先生の授業は分かりやすいと思う。 ★保護者アンケート⑧【共通】(R4 90.6%) A 四谷小学校の先生は、分かりやすい授業を行っていると思う。	○各教員が学力向上マイプランを継続的に作成して取り組んでいるため、児童は授業が充実していると感じている。 ○感染対策を講じ、授業公開をした成果もあり、昨年より授業の様子を伝えることができています。	●学力向上マイプランに示した授業改善の取組を進め、社会科の研究授業を通して、共通理解を図っていき、さらなる授業の充実を図る。	◎学校長が明確にビジョンを示している。そのため、各教員が、分かりやすい授業のために、何を、どのように子供たちに学ばせるのかが、捉えやすくなっている。	A	○学力向上マイプランに基づいて1時間の授業づくりの「四谷スタイル」を確立し、全ての教員が社会科・生活科だけでなく、全ての教科等の授業で実施し、授業改善に努めることができたことが、児童の肯定的な意見となっている。	●本年度の成果を生かし、次年度も社会科・生活科を核にし、教科・領域を絞らず、主体的・対話的で深い学びの授業づくりを研究し、保護者や東京内外の教員にも広く公開していく。
	2 学習のねらいの実現に向けて教師と児童がGIGAタブレットを効果的に活用した授業を行う。 【情報部】	★教員アンケート②【共通】(3.6ポイント) A あなたは、「主体的・対話的で深い学び」の視点で、タブレットPCなどを活用している。 4はい 3少しはい 2少しいいえ 1いいえ ★教員の取組指標②(3.5ポイント) A 4ドリルパーク以外のソフトを活用して授業のねらいに応じた活用を毎日3回以上、教師も児童も活用した。 3授業のねらいに応じてタブレットを毎日3回以上、教師も児童も活用した。 2授業のねらいに応じてタブレットを毎日、教師も児童も教室等で活用した。 1上記以下	★児童アンケート⑥(R4 87.7%) B 実物投影機やパソコンなどを使った授業は分かりやすく楽しい。 ★児童アンケート⑦【共通】(R4 82.9%) B タブレットPCなどを使って、「調べる」「まとめる」「伝え合う」授業が好きだ。 ★保護者アンケート⑩【共通】(R4 83.3%) B 学校は、タブレットPC等を使って、こどもが「調べる」「まとめる」「伝え合う」授業を行なっていると思う。	○各教員がICTを積極的に活用し、児童の意見が交流できるような場面を意識して授業を行っている。 ▽児童同士が意見を交流する際に、高学年ではタブレットを活用するほうが不便だと感じている児童もいる。	●Skyと連携し、スカイメニューの活用の研修を行うことで、活用スキルがアップしたため、継続して研修を計画する。 ▼児童の意見の共有させる際、有効なツールを、研修を通して開発していく必要がある。	◎四谷スタイルの授業を確立することで、どの学年の子供たちも、学びに向かう方向性が同じため、よい学習環境を整えていることが伺える。 ◎児童がタブレットをよく使用し、学習のツールとして取り入れることができています。今後、デジタルドリルと紙ベースのドリルの児童にとっての有効性を比べる必要がある。	○教員は、GIGA 端末を活動して、児童の学びを深められるための授業改善が図られていると、捉えられる。 ▽児童は、GIGA 端末の活用について、通信速度や活用するツールについて使用の難しさを高学年になるにつれ、課題に感じる児童も増える傾向にある。		●GIGA 端末の効果的な活用の推進が図られつつある。次年度は、教科のねらいを達成する活用法や協働的な思考を促す活用法を実践を通して開発していく。 ▼企業との連携を深めて、児童が学習しやすいツールは何かを探る必要がある。	
	3 朝学習の時間やモジュール学習、家庭学習などでGIGAタブレットのドリルパークを活用して基礎的な内容の定着を図る。 【教務部】	★教員の取組指標③(3.6ポイント) A 4以下に加え、毎日のタブレット含めた家庭学習を学年×10分程度出して取り組ませた。 3モジュール学習の時間以外の朝学習等でもタブレットなどで基礎的な内容の定着を行った。 2モジュール学習の時間に基礎的な内容の定着を行った。 1上記以下	★保護者アンケート⑨(R4 92.1%) A 四谷小学校の先生は、子供たちに基礎・基本の学力をつける指導に力を入れている。	○児童は、デジタルドリルを活用して漢字や計算の反復練習に意欲的に取り組んでいる。	▼漢字についての習熟が課題であり、タブレットと漢字ノートをしかりと併用して定着を図る必要がある。	◎漢字・計算などの基礎的な内容については、担任・児童・保護者と連携を図りながら、進捗状況などを共有することができている。	▼ドリルパーク等で基礎的な知識や技能の定着を図り、学力下位層の減少の対する方策を算数少人数担当を中心に次年度へ向けて検討する。			
豊かな心の育成	新型コロナ感染症防止、人権意識や規範意識向上に取り組むとともに、特別支援教育への理解伸長と具体的支援や支援体制の充実を目指し、児童が安心して生活できる環境の実現を図る。 【施策2】 【施策8】	1 文部科学省のガイドラインに基づいた感染症防止対策を明文化して徹底し、保護者にも周知し協力を求める。 【生活指導】	★教員の取組指標④(3.6ポイント) A 4学校行事や教育活動について、感染防止の方法を工夫した上で、方法を工夫して最大限の成果をあげた。 3区の指針に基づいて対応し、定期的に児童への指導や保護者等への周知を行った。 2区の指針に基づいて対応を行った。 1上記以下	○学芸祭・学校公開・運動会等の保護者アンケートの結果から、四谷小学校の感染対策は、十分に行われていたという意見が多い。	○感染対策マニュアルに基づき、コロナ禍の状況の中で、工夫して学芸祭や運動会を実施した。	◎しっかりと新型コロナウイルスの対策を考えて、学校運営を行っていたため、後期も継続していき、児童が安心できる学校の環境を整えていた。	A	○行事ごとのアンケートでは、児童数の増加に伴い、行事の運営が難しい中でも、感染対策に心がけ、工夫して保護者の方に公開しているという肯定的意が多い。	●今年度の成果をいかし、PTA との連携を通して、感染を広げることがないように、安全・安心を目標に学校行事の運営を進める。	
	2 長期休業明けの基本的な生活習慣の改善を促す取組を行うとともに、いじめアンケートやいじめ防止授業を行い未然防止に努める。 【生活指導部】	★教員アンケート⑤【共通】(3.5ポイント) A あなたは、児童の話や聞き取りなど、交友関係の把握やいじめの早期発見に努めている。 4はい 3少しはい 2少しいいえ 1いいえ ★教員の取組指標⑤(3.3ポイント) B 4下記以外に学年・学級等で工夫した取組を行った。 3毎日の挨拶指導と長期休業明けの生活習慣改善の指導を行い、いじめアンケートで解消に向けた取組を行った。 2毎日の挨拶指導と夏休み・冬休み明けの生活習慣改善の指導、または、いじめアンケートにより解消に向けた取組のどちらか一方だけ行った。 1上記以下	★児童アンケート⑮(R4 95.4%) A いじめはいじめないことだと思う。助けがないのもいじめないと思う。 ★児童アンケート⑯【共通】(R4 87.5%) B いじめなどの問題があるときには、すぐに先生に相談することができる。 ★保護者アンケート⑤(R4 70.2%) B 四谷小の子どもたちは、あいさつの習慣が身に付いている。 ★保護者アンケート⑮【共通】(R4 96.6%) A 子どもがいじめやいじめの疑いがある時には、学校に相談することができる。	○昨年度の課題となったいじめの早期発見については、職員間でいじめについての対応について何度も確認したため改善できている。 ▽あいさつについては、保護者も児童もアンケート結果は低い状況である。	●hyper-QUの結果を踏まえた取組やいじめ防止プログラムの確実な実施を行う。 ▼あいさつ運動が再開され、地域の方から、児童のあいさつのよさが挙げられている。それを保護者に伝える機会を設ける。	◎いじめの早期発見については、hyper-QUなどを活用して児童の理解を深めることに有効だと感じた。学校でのいくつかのアンケートを丁寧に分析して、四谷小学校の児童が楽しく学校生活を送ることができるように望む。		○保護者と協力関係を築くことで、いじめが深刻な問題にならないように、解決をすることができた。 ▽地域のあいさつ運動の取組が広がり一定の成果があったものの、家庭への働きかけを強化する必要がある。	●いじめの早期発見や組織的対応についての取組は確実に進んでいる。次年度も継続していく。 ▼地域の方からの児童のあいさつのよさについての声を、HP や学校だより等で、保護者へ知らせるようにする。	
	3 対象となる児童の合理的配慮を検討して個別指導計画を作成・活用したり、校内委員会を定期的に開催して具体的・組織的な支援の充実を実現したりする。 【特別支援委員会】	★教員の取組指標⑥(3.5ポイント) A 4学級生活支援シートと個別指導計画の作成・活用、学年や専科との情報共有、学級での適切な支援を行った。 3学級生活支援シートと個別指導計画の作成・活用、学級での適切な支援を行った。 2学級生活支援シートと個別指導計画の作成を行って支援をした。 1上記以下	★児童アンケート⑰(R4 84.4%) B 学校へ行くのは楽しい。 ★保護者アンケート②(R4 : 96.6%) A 四谷小の子どもたちは仲良く生活しており、学校での様子は楽しそうである。	○前期に必要な個別指導計画は作成できた。 ▽低学年に支援会議や不登校傾向になる児童が増えているため、未然防止の取組を検討していく。	●特別支援校内委員会に加えて、不登校支援委員会を今後も継続的、定期的に行い、支援を担任のみの負担が大きくならないように組織的解決を努める。	○月1回の特別支援校内委員会で情報を共有し、10月に全学級で個別指導計画の後期分を修正し、校内委員会で確認するなど、組織的な運営が図られた。		●特別支援の充実に向けて、組織的な取組と教職員の理解伸長や支援策の実践力向上を図るための校務分掌や校内研修を次年度も計画的に継続して行っていく。		

<p>体力の向上</p>	<p>オリンピック開催に向け、感染症防止対策を踏まえて、体育授業の実施や運動の日常化を図り、体力を向上させる。【施策2】</p>	<p>1 トップアスリートを招聘し、運動会や体育集会の実施方法を見直し、感染症対策を適切に講じた体力向上の取組を実施する。 【体力向上委員会】 2 新宿ギネスやコーディネーショントレーニングなどに取り組む時間を保証し、体力の維持向上に努める。 【体力向上委員会】</p>	<p>★教員の取組指標⑦ (3. 5ポイント) A 4 下記以外に工夫した体育の授業を実施した。 3 体育の学習内容を履修させるとともに、表現運動の動画配信や学年運動集会を実施した。 2 感染防止に取り組み、水泳以外の体育の学習内容を履修させることができた。 1 上記以下</p>	<p>★体力テストの結果で都平均を超えている種目等 ○おおむね、区の平均・全国平均よりも若干高い記録である。2年生以外、男子の方が都の平均を超えている種目数が多い。「ソフトボール投げ」が低い傾向がある。</p>	<p>○体力向上部を中心に、児童の運動量を確保した体育の授業の工夫ができた。 ▽アスリートを招集した授業ができなかった。</p>	<p>▼アスリートを招集した授業実施に向けて計画を見直す必要がある。</p>	<p>◎子供たちの体力向上のために、限られた施設の中で、学校が工夫して活用できるように心がけ、時間を確保していることは素晴らしい。</p>	<p>A</p>	<p>▽体力テストでは、都の平均よりも下回っている種目があり、校内で運動能力を高めるための方策を検討していく必要がある。</p>	<p>●トップアスリートの招へいは、児童の運動する喜びへのよい動機づけになった。計画的な招へいを次年度も行い、その様子を広報していく。 ●集会を通して、新宿ギネスの学級ごとの記録を、計画的に発表し、さらに意欲的に取り組む児童を増やしていく。</p>
<p>創意工夫ある教育</p>	<p>学校の特徴ある活動である「天童市干布小学校との姉妹校交流」「金管バンドの活動」「四谷子ども園との交流」を継続する。 【施策4】</p>	<p>1「天童市干布小学校との姉妹校交流」では作品や動画、GIGAタブレットによるオンライン交流を取り入れた交流活動を全学年で進める。 【天童委員会】 2「四谷子ども園との交流」は、感染症防止対策を行った上で、全学年で1回以上交流の機会がもてるように努める。 【教務・保幼子小交流】</p>	<p>★教員の取組指標⑨ (3. 5ポイント) A 4 山形県や天童市、干布について学ぶ機会を設け作品送付などの交流とオンライン交流を合計で2回以上行った。 3 山形県や天童市、干布について学ぶ機会を設け、作品を送るなどの交流を行った。 2 干布小に作品を送るなどの交流を行った。 1 上記以下</p>	<p>★各学年の交流状況 6年 東京ガイドマップ紹介 5年 和食の魅力を発信しよう(オンライン) 4年 山形県と東京の地理の比較・ガイドマップ 3年 新宿区ガイドマップ 花笠音頭(オンライン) 2年 四谷のまちたんけん紹介(タブレット活用) 1年 アルバム写真交流</p>	<p>○6年生の天童との夏の交歓会はなくなったが、オンライン交流や作品交流は、計画通りに実施できている。</p>	<p>●後期も、5年生はオンライン交流を必ず設け、来年度の天童との交歓会に備えることができるようにする。</p>	<p>◎天童の干布小学校とは、直接交流はできなかったが、オンラインで15周年記念集会で交流した場面は、とても印象に残った。感染対策を講じた、非常によい交流となった。なった。</p>	<p>A</p>	<p>○全学年、作品交流やGIGAタブレットを活用したオンライン交流を行った。開校15周年の記念集会では、干布小の6年生もオンライン上で参加した。</p>	<p>●次年度へ向けて、直接交流(天童交歓会)ができるように、特別委員会を組織的に活用して、計画的に進めていくことができるようにする。 ●4月に学級担任と子ども園の担任で顔合わせを行ったことがスムーズな連携につながったため、次年度も4月に顔合わせを継続して行う。</p>
<p>地域連携</p>	<p>地域協働学校として、家庭や地域と連携した取組や地域人材活用を充実させることで地域とのつながりを深める。 【施策4】</p>	<p>1 スクールコーディネーターやPTAと連携して、読書支援、環境美化、あいさつ運動、天童交歓会運営、金管バンド支援、安全見守り活動の支援を受けたり、外部人材を活用したりして教育活動を進める。 【副校長・学年主任】 2 学校だよりや学年だより、学級だより、HPを使って、学校の教育活動の様子を計画的・積極的に発信する。 【副校長・副校長補佐・情報部】</p>	<p>★教員アンケート④【共通】(3. 4ポイント) B あなたは、児童が学校に関わる地域の人と一緒に活動する機会に積極的に関わっている。 4はい 3少しはい 2少しいいえ 1いいえ ★教員の取組指標⑩ (3. 6ポイント) A 4 学級や専科で2回以上の教育活動の支援を受けた。 3 学級や専科で1回は教育活動の支援を受けた。 2 間接的にゲストティーチャーや教材の支援を受けた。 1 上記以下</p>	<p>★児童アンケート⑫ (R4 78.0%) B 学校に関わる地域の人(スマイルクラブの皆さん)から様々なことを教わったり、一緒に活動したりしことがある。 ★保護者アンケート⑫【共通】(R4 91.3%) A 学校は、子どもが学校に関わる地域の人(スマイルクラブのみなさん)と一緒に活動する機会をよくつくっていると思う。</p>	<p>○スマイルクラブ(地域支援者)による教育支援を各学年で実施できた。スクールコーディネーターによりスマイルクラブのHPも開設され、活動内容やそのよさを保護者に周知できている。</p>	<p>●児童はスマイルクラブの方との交流により、地域の方との交流のよさを実感しているため、さらなる連携を図り、活動の充実を努める。</p>	<p>◎スマイルクラブのよさを保護者が例年よりも実感した年だった。スマイルクラブのHPを作成した効果である。児童にさらに、認識してもらうために、学校でも子供たちにスマイルクラブのよさを伝える機会を増やしてほしい。</p>	<p>A</p>	<p>○全学年で2回以上、地域の教材や人材を活用して学習効果を高めることができた。 ○保護者から、スマイルクラブの支援体制に関して、例年以上に高い評価を受けた。</p>	<p>●スマイルクラブによる授業支援は大変充実することができ、様々な人と交流することができた。児童にも、スマイルクラブのよさを継続的に伝えていく必要がある。 ●学校だより、学年だより等は年間をととして、HPにしつかり掲載することができたため、来年度も継続していきたい。 ▼PTA組織とも連携を図り、配布物の確認は、各家庭で行う必要性を伝えている。</p>
<p>学校独自の取組</p>	<p>新宿区の方針に基づき、学校の実情に応じた働き方改革をすすめる。 【施策9】</p>	<p>1 働き方改革をすすめる。 ・最終退勤時刻や定時退勤日の設定し奨励する。 ・計画の整備とデータの保管・共有を推進する。 ・目的と必要性を吟味し行事や校務を精選する。 【管理職・企画委員会】</p>	<p>★教員の取組指標⑬ (3. 6ポイント) A 4 働き方改革で生まれた時間を自己の資質・能力の向上や子供と向き合う時間に活用した。 3 退勤時刻、校務データの活用に加え、業務の効率化や精選に努めた。 2 退勤時刻に加え、校務のデータの保管・共有・活用を積極的にすすめた。 1 午後7時30分退勤、定時退勤日の実現に努めた。</p>	<p>★保護者アンケート⑬ (R4 93.2%) A 教職員は、誠実に子どもや保護者に接している。</p>	<p>○職員は、会議を計画的に遂行することで、定時に近い時間で退任したり教材研究をしたりする時間を確保できている。</p>	<p>▼6年の移動教室に関しては、全ての手配を担当が行うため、かなりの時間を費やしており、来年度に向けて業務の改善が必要である。</p>	<p>◎教員の働き方改革に取り組んでいることは、今後も継続してほしい。そのために、地域の人材を活用できるように、学校運営協議会でも、先生方と連携を深めていきたい。</p>	<p>A</p>	<p>○年間を通して、意識して勤務時間を調整できたという教員が多い。 ○計画的に、校務データの共有をして、掲示板を生かして情報共有を図ることができ、校務改善につながった。</p>	<p>●データの共有フォルダを作成しているが、次年度以降に、そのフォルダを整理し、さらなる校務の改善につなげるようにしていく必要がある。 ●今年度の研究成果を継続して、都小社研と連携を図り、令和5年度の全国大会で、四谷小の研究内容を分かりやすく発信する。さらに、児童の主体的・対話的で深い学びの姿を、全国大会の授業で実際に発信できるように児童を育てる。</p>
	<p>令和5年度の全国大会に向けて、社会科を中心に実践研究を通して、主体的・対話的で深い学びを推進する。 【施策1】</p>	<p>1 年間6本の授業実践を通して社会科の授業づくりの方策や評価方法について研究し、各研究授業は区や都小社研に紹介し、研究成果を広める。 【研究推進委員会】</p>	<p>★教員の取組指標⑭ (3. 5ポイント) A 4 以下に加えて主体的に学習に取り組む態度の育成を図る工夫した授業に取り組んだ。 3 以下に加えて四谷スタイルの授業に取り組んだ。 2 生活科での体験的活動や社会科での問題解決的な学習を行い、振り返りカードや学び方カードを継続的に活用して見通しと振り返る力を高める。 1 上記以下</p>	<p>★社会科アンケートの回答(全国平均ポイントの差) ① 学習問題を決めてその解決のために調べたり考えたりすることができる。 4年18.5P↑5年18.5P↑6年4P↑ A ② 自分の考えを資料などを使って説明することができる。 4年26.8P↑5年3.5P↑6年-1.9P↑ A ③ 調べたことをもとに自分の考えを書くことができる。 4年15.9P↑5年10.3P↑6年-1.6P↑ A ④ 学習問題やテーマを決めて討論(話し合い)することが好きだ。 4年22.8P↑5年15.2P↑6年10.5P↑ A</p>	<p>○学び方カードを活用し、児童が自らの学習状況を把握できている。</p>	<p>●都小社研との連携を図りながら、研究授業やプレ発表会を予定通り行うことができた。 ▼学年が上がるにつれ説明する意欲等に課題があるため、グループ活動を工夫して行うようにする。</p>		<p>A</p>	<p>○アンケート調査により、授業改善を通して主体的に学習に取り組む態度が育ってきていることが分かった。 ○都小社研や区社研と連携を図り、11月に全小社研東京大会プレ発表会を開催し、研究成果を発表できた。</p>	

